

現場で働く人を主役とした土木広報で 三方よしの活動を展開

宮崎県土木施工管理技士会
旭建設株式会社
労働安全衛生部次長
河野 義博
Yoshihiro Kawano

1. はじめに

工事概要

- (1) 工事名：平成25年度防安水防第7-2号
大淀川面早流地区輪中堤工事
- (2) 発注者：宮崎県高岡土木事務所
- (3) 工事場所：宮崎県宮崎市高岡町大字面早流
- (4) 工期：平成25年9月9日～
平成26年8月31日

主たる工事内容

掘削工 $V=1,058\text{m}^3$ 、盛土工 $V=3,485\text{m}^3$

低水護岸ブロック張工 $A=997\text{m}^2$

護岸ブロック積工 $A=517\text{m}^2$

樋門工1基、遮水矢板工(鋼矢板Ⅱ型w) $N=45$ 枚

根固ブロック工 $N=383$ 個

パラペット工(特殊堤) $V=230\text{m}^3$

排水工1式、工事用道路工1式

2. 現場における課題・問題点

本工事は、平成17年の台風14号による浸水被害を受けた地域を河川の氾濫から守るため、被災地域を囲むように輪中堤を施工する工事である。

このため、地元住民の工事への興味は非常に高く、地元に対しこの工事の進み具合などを情報発信していく事が重要であると考えた。ただし、単なる工事進捗をお知らせするのみではなく、どん

な人達が、どんな表情でこの工事をしているのか、また、土木ってどんな機械や技術を使って進められているのかについて広報する事で、単に土を移動させたり、生コンを打設するだけではないという事を理解してもらう事も重要だと考えた。

3. 工夫・改善点と適用結果

現場周辺で工事そのものの内容等に関する広報と、広く社会に向けて土木の魅力そのものを伝える広報の両輪で広報活動の展開を図った。

これにより、現場で働く人の意欲や連帯感の醸成に繋げていきたいとも考えた。

- ①現場周辺への小規模対象広報として以下を実施。
 - 地元説明会を工事開始前と中間で計2回開催。
 - 地元自治会あての広報誌を合計3回配布。
 - 掲示板を一般道の沿線に設置し地元住民向けに工事の様子を広報した。
- ②広く社会に向け土木の魅力そのものを伝える広



図-1 フェイスブックページ【土木のミリオク】



図-2 投稿記事の一例

報として、宮崎県庁職員と民間建設業数社の社員が連携して結成した自主研究グループ『土木のミリヨク研究会』（会長：宮崎県庁職員・副会長：河野義博・会員：他5名）によって運営中のフェイスブックページ【土木のミリヨク】にて、現場の様子を情報発信する事とし、前項①の掲示板とリンクさせ広報を行った。

土木広報に関して、これまでも様々な取り組みがなされてきたが、これまでのように現場で働く人が黒子のように隠れてしまう広報では土木の真の魅力は伝わらないと考え、以下のような情報発信は避ける事とした。

- 行政が発信しがちな工事現場の所在地や事業目的に関する情報。
- 企業が発信しがちな企業名や施工実績などの情報や工事の進み具合などの情報。
- 現場が力を入れがちな子供などを中心としたイベントに関する情報。

若者が魅力を感じられない建設産業の現状は少子高齢化等を背景に衰退する地方の姿と重なるものがある。そこで、地域の歴史や文化を地域固有の魅力として発信し活性化に繋げていく地域プロモーション活動を参考に、これまで十分にアピールされてこなかった「建設現場で働く人々がイキイキと働いている様子」や「土木特有の技術」を発信していくことで、建設産業のイメージアップを図る事とした。

また、建設現場の『ありのままの姿』を多くの



図-3 掲示板を見ている地元住民

人に見てもらい、賞賛を受けることで、現場で働く人のやりがいに繋がりたいという思いもあった。真のターゲットは現場で働く人たちである。

4. おわりに

このように、地元住民や不特定多数の人たちに現場で働く人が主役の広報活動で工事を理解してもらう活動を行ってきた。

今回の活動をとおして感じたことは、地元住民に向けた掲示板を地元の人たちが見てくれていた事で、地元の方にお会いした際の話題として大いに役立ち、コミュニケーションが取りやすかった。また、工事への苦情はゼロであった。(地元よし)

【土木のミリヨク】については、県内のみならず、県外、海外まで広く関心を集め、現在2250以上の土木ファンが集まるページへと成長し、土木学会のフェイスブックページで投稿記事が度々紹介されるようになった。また、宮崎日日新聞紙上でもこの活動が紹介された。このように積極的に情報発信をしてきたことで工事への苦情はゼロ。また、見られているという感覚が品質向上や出来栄への向上に繋がった。(発注者よし)

工事関係者、特に協力業者や直営作業員(職人)は投稿記事を毎回楽しみにしてくれ、笑顔の絶えない現場であった。元請と協力業者間の人の和が本当に良くなり、一致団結し工事に取り組むことができ無事完成する事ができた。

また、発注者と連携した事で広報に関するアドバイスを貰うなど、コミュニケーションが取れ仕事がやりやすかった。(受注者よし)

笑顔の三方よし！今後も続けていきたい。